

特別支援学級生活単元学習学習指導案

知的障害特別支援学級（はばたき学級）

4人（1年女子1人，4年男子1人，5年女子1人，6年女子1人）

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなる学級）

5人（1年男子1人，2年男子1人，6年男子3人）

指導者 T1 前田 博美 T2 秋田 護

1 単元名 秋のあすはばパーティーを開こう

2 単元について

(1) 単元の価値

子どもたちは、これまでに季節を感じる学習として「学校のまわりを探検しよう」で桜の花や学級園の花から春を感じ、また、「あすはば七夕祭りを開こう」で飾りを作ったり、簡単な調理をしたりして、夏を感じる活動をしてきた。しかし、季節を感じる行事を楽しんではいるものの、季節のことを生活と関連させて考えたり、生活の中で感じたりすることが少ないという課題も明らかになった。

そこで本単元では、実際に秋の季節を感じる木の実や落ち葉を学校内外で見付け、教師が示した手順に従って、友達と協力しながらそれらを使った製作活動をし、作ったもので遊んだり、発表して紹介したりすることができるようにする。また、秋のあすはばパーティーを開く計画を立てて、パーティーで調理する簡単な調理の手順などを確認したり、調理のための材料を買ったりすることができるようにする。

指導に当たっては、秋の様子が具体的に分かるようなVTRを準備することで、秋という季節を感じ、日常生活の中にも秋があることに気付かせたい。また、さらに秋を身近に感じられるように、校内や学校周辺を探検して、木の実や落ち葉を集め、集めたそれらの材料を使って、簡単なおもちゃや飾りを自分で作ることができるようにしたい。そして、秋の食材を使った調理の計画を立てると共に、買い物の手順を確認したり、調理の手順を調べたりすることで、その子どもなりの見通しをもって取り組むことができるようにしたい。まとめとして開く「秋のあすはばパーティー」では、作ったもので遊んで楽しんだり、買い物に行き材料を買ったり、秋の食材を使った料理を調理したりすることで、秋のよさを十分に感じながら楽しむことができるようにしたい。その際には、「七夕祭り」を開く際の学習の流れを思い出しながらか招待状を書き、他の教職員を招待して学習したことを発表し、多くの招待客に認められるような機会を設け、達成感を味わうことができるようにしたい。さらに、おもちゃ作りや買い物、調理では、互いに材料を渡し合ったり、協力して製作したりするような活動の場を設定することで、互いにかかわることのよさを感じることができるようにしたい。発表や招待状を書く学習については、課題を個々の国語の実態に応じて設定すると共に、製作活動では、課題を個々の算数の実態に応じて設定することができるようにしたい。

このような学習を通して、学校や地域の行事で季節を感じ、季節の行事を楽しむことで、学校生活や家庭生活でも、様々な季節の自然に関するものを見付けることができるようになることを考える。さらに、それらを使って遊んだり飾ったりするものを自分で作って遊ぶ楽しみを知ることで、余暇の楽しみ方を豊かにすることもできると考える。

(2) 単元の目標

- 木の実や落ち葉を使った製作活動、買い物や調理などの体験活動に意欲的に取り組み、見通しをもってそれぞれの活動を楽しむことができる。
- 実際に秋の季節を感じるものを見付けたり、見付けたもので作品を作ったりして、友達や教師の前で発表することができる。
- 教師が示した手順を見て何をするのか見通しをもち、友達と協力しながら、自分がすべき活動に取り組むことができる。

(3) 子どもの実態

	教育的ニーズ	本単元に関連すること	教科等に関すること
A 児 1 年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付け、毎日の生活のリズムに従って日常生活を送ること。 自分の感情をコントロールして、友達とかかわること。 平仮名や数字を読むことができるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> 寒い、暑いという体感温度で季節を感じる程度である。 買い物には保護者と一緒に行き、自分の買いたい物を選ぶことができる。 調理の経験はほとんどなく、安全面への配慮が特に必要である。 粘土遊びは好きであるが、絵を描いたり、細かい作業を伴ったりする製作は苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 五十音の平仮名の清音は、読んだり書いたりすることができるが、鏡文字になることもあり、平仮名表を見て自分で確認する事ができるようにしている。濁音・拗音・促音については、手本を基に、視写しながら書く練習を続けている。 教師が短く区切って文を読むと、それを聞いて、ほぼ同じように読むことができる。自分で読む際には拾い読みになり、意味の理解が難しくなる。 1～10までは確実に読んだり数えたりすることができる。11～20の数を読んだり、数えたりする学習に取り組んでいる。 6～9の数字の書き順が正しくないことが多く、なぞって書く練習を繰り返し行っている。
B 児 1 年	<ul style="list-style-type: none"> 身辺自立ができるようになること。 基本的な生活習慣を身に付け、健康や安全に気を付けて過ごすこと。 友達とうまくかかわりながら学校生活を楽しむこと。 平仮名や数字の読み書き、簡単な計算ができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校時に、落ち葉等を拾ってきて、鑑賞したり遊んだりしている。 買い物は大好きであるが、一人で行くことは難しい。 調理の経験は少なく、安全面での配慮が必要である。 製作活動は、好きであるが、指先の力が弱く、巧緻性が低いので、細かい作業は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名（五十音の清音）は読むことができるようになった。濁音や半濁音の文字は、一つずつ確認しながら読んだり書いたりする。五十音の「あ・え・そ・ぬ・ふ・み・む・め・を」は書くことが難しいので、なぞり書きが必要。筆圧が弱い。 相手に伝える内容を理解して、自分の言葉で精一杯伝えようとする。 20までの数字を読み、10までの数字と数をマッチングできる。数えることに関しては、10までの数だと正確に数えることができるようになってきた。よく見ながら、一つずつ指さしたり、印を付けたりしながら数える必要がある。
C 児 2 年	<ul style="list-style-type: none"> 活動する場面、聞く場面などが分かり、その時に応じた行動をすることができること。 友達とコミュニケーションを図りながら、楽しく遊んだり話したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「夏は暑い」と季節と気温を関連づけて感じている。 買い物には保護者と行き、自分でお金を払うこともある。 調理は休みの日に保護者と時間をかけて取り組むことがあるが、混ぜる、入れるといった作業が主である。 折り紙が大好きであり、自分で作り方の本を見て作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の漢字の練習をしており、視写しながら書くことができるようになってきている。文字を読むことが好きであり、本も進んで読んでいる。しかし音読をする際は自分のペースで読み、速くなるが多いため、聞く相手を意識して読む必要がある。 乗法九九は覚えており、質問されると答えることができるが、状況に応じた立式をすることは難しい。繰り上がりのある加法の筆算の学習で手順は理解しており、現在繰り下がりがある減法の筆算の手順を確認している。 お金の分別はでき、一円、十円、百円を使って支払うことはできるが、五十円や五百円での支払いはまだ難しい。
D 児 4 年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付けること。 一人で何事にも挑戦し、学ぶこと。 算数の基礎的な力を身に付けること。 漢字を読んだり書いたりする力や文章を書く力をもっとつけること。 自分の意思を相手に伝えることができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋に木の実が落ちたりとんぼがいたりすること等は理解している。 買い物は、一人で行くことができるがおつりの計算は難しい。 調理の経験は少なく、安全面での配慮が必要である。 製作活動は、あまり好んで取り組もうとしない。指先の巧緻性が低く、細かい作業は苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の少ない1年生の教科書程度の文章は音読できる。発表原稿を基に練習すると、自信をもって発表できる。 1年生程度の大体の漢字を読むことができるが、書くのは難しい。促音や片仮名表記を間違えることがある。 2～3行の文章から一つのことを読み取ることにはできる。日記は、4～5行程度書くが、主語がなかったり大事なことを書いていなかったりする。日記は、知っている漢字も平仮名表記をする。 乗法九九は暗唱できるようになったが、3×8や9×6以降を間違えるなど、定着はしていない。 繰り上がりのある2位数の加法や減法、2位数同士の乗法の筆算ができるが、繰り上りの間違いがある。
E 児 5 年	<ul style="list-style-type: none"> 学習面に関しては、生活に必要な読み・書き・計算等の基礎的・基本的な内容を身に付けること。 周囲の人とのコミュニケーションをうまく図ることができるようになること。 自分の考えや伝えるべきことを相手に分かるように伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋に木々が紅葉したり、衣替えをしたりすることを理解している。 買い物は、一人で行くことができるが、150～130等のおつりの計算は難しい。 調理には意欲的に取り組み、お湯を沸かしたり野菜等を乱切りにしたりすることができる。 製作活動は、大好きで、折り紙など初めて作る物も自分で本を見て作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居や絵本など、漢字に読み仮名がふつてある物は、進んで読み聞かせができる。 3年生の新出漢字82%を読むことができるが、正しく書くのは難しい。 低学年向けの文章の読み取りは、ある程度できる。4～5行程度の日記は自分で書くことができる。習った漢字の使い方の間違いが多い。 乗法九九を暗唱できるが6×8を間違いやすい。2位数÷1位数の筆算はできる。 繰り上がりのある2・3位数の加法や減法、2位数同士の乗法の筆算ができるが、計算の仕方を忘れやすい。繰り上がり繰り下がり計算については、指を使ってするが、筆算(+・-)等の計算は速くできる。 mm・cm・mを定規で測ることができる。

	教育的ニーズ	本単元に関連すること	教科等に関すること
F 児 6 年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思い通りにいかないときでも感情をコントロールすること。 2年生程度の算数力を身に付けること。 生活するために必要な衣食住の基本的な力を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 暑い、寒いということと夏や冬の季節を関連させて考えることができる。 小遣いをもらって自分で買い物をするのはできる。持っているお金で足りるかどうかの判断がまだ難しい。 母親を手伝って一緒に野菜を洗ったり包丁で切ったりする経験をしている。包丁の使い方については注意して見守る必要がある。 製作等の活動には意欲をもって取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今月の詩などを繰り返し練習すると、音読することができるようになるが、音読への苦手意識をもっており、はっきりと発音して読むことが難しい。 1年生の漢字は読むことができる。また、手本を基に書くこともできる。現在2年生1学期の漢字の練習に取り組んでいる。さらに、教科等のよく目にする漢字を書こうとするが、書き順等を正しく書くまでにはいたっていない。 数え足して答えが20までの加法をすることができる。2位数同士で繰り下がりがない減法の筆算の学習をし、手順を覚えようとしている。しかし、特に算数の学習では、できた問題も時間が経つと解き方を忘れてしまうため、繰り返し学習する必要がある。 自分から進んでポスターなどの絵を描くことはしないが、教師が例を示すと取り組むことができる。工作などは好んで行き、家庭でもプラモデルを作っている。
G 児 6 年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思い通りにいかないときでも怒ったり、泣いたりせず感情をコントロールできること。 示された手順に従って、活動に見通しをもって取り組むこと。 友達とのより良いかわり方が分かること。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとに生活単元学習で行った行事はよく覚えている。自然の様子に目を向けるのは難しい。 母親と一緒に買い物に行き、自分の小遣いで欲しい物を買うことができる。 調理をすることが好きで、休みの日に母親と一緒にみそ汁やカレーなどを作ることがある。 作り方の理解ができた物の製作には、意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話の幅が広がってきたが、手紙などは例文等がないとなかなか書くことはできない。どんなことを書けばよいか教師と話したり、行事等を教師と想起したりすることで書くことができる。 1年生の漢字は読むことができる。また、手本を基に書くこともできる。現在2年生1学期の漢字の練習に取り組んでいる。 2位数同士の繰り上がりがある加法や繰り下がりがない減法の筆算は確実にできる。3位数の繰り上がりがある加法の筆算や、繰り下がりのある減法の手順について学習を続けている。 お金の分別は確実にすることができ、五十円や五百円が入っても、正しい金額を支払うことができる。 図工では、自分の描きたいもの、作りたいものを決めて、意欲的に描いたり作ったりすることができる。作品も色彩豊かなものが多い。箱などで立体的な動物を作ることも好きである。
H 児 6 年	<ul style="list-style-type: none"> やるべきことを一つ一つ確実にすることができること。 自分の思い通りにいかないときでも活動を投げ出したり、怒ったりせず、自分の気持ちをコントロールして、友達と一緒に活動すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 本を読んで、知識として季節のことを知っているが、生活の中で自分で見付けることは難しい。 一人で買い物をすることができる。しかし、お金の大切さを感じていないため、扱いに注意する必要がある。 家庭での調理の経験はほとんどない。家庭科では、教師や友達の手助けをもらいながら活動している。 工作には意欲的に取り組み、楽しみながら活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 確実に書くことができるのは1年生程度の漢字であるが、身の回りの漢字を書きたいという意識は高く、見ながら書こうと努力している。現在2年生1学期の漢字の練習に取り組んでいる。 音読は抑揚を付けて気持ちを込めながら読むことができる。文字を書く際に慌てて書くため乱雑な字になりやすい。ゆっくり丁寧に書くことができるように言葉掛けをしている。 2位数同士の繰り上がりがない加法や繰り下がりがない減法の筆算を確実にできる。繰り下がりがある減法や3位数の繰り上がりがある計算の手順について学習を続けている。 全てのお金の分別は確実にすることができ、お金の種類の大小も理解している。 図工で絵を描いたり、説明図を見ながら折り紙でいろいろなものを作ったりすることができる。細かいはさみの使い方を苦手としている。
I 児 6 年	<ul style="list-style-type: none"> 中学年程度の学習内容を身に付け自分で生活できるようになること。 友達とうまく関わりながら仲良く楽しく生活できること。 周りの状況を見て行動できるようになること。 好きなこと（音楽や料理・パソコン等）をもっと勉強して余暇を楽しんだり、仕事に生かしていったりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋に木の実がなったり紅葉したり落葉したりすること等は知っている。 買い物は、一人で行くことができ、十円単位のおつりの計算はできる。 調理には意欲的に取り組み、お湯を沸かしたり野菜等を乱切りにしたりすることを、安全に気を付けてできる。 製作活動は、好きであるが、細かい作業はあまり得意ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居や絵本など、漢字があまり使われていない文章は音読できるが、文の区切りが難しい。 2年生程度の漢字の約9割程度は読むことができるが、書くことは難しい。 低学年向けの文章の読み取りは、ある程度できる。4～5行程度の日記は自分で書くが、漢字を交えたり、中心を考えて書くのは難しい。 意識しないときは、発音が不明瞭になる。 乗法九九は暗唱でき、2位数×2位数の筆算はできる。余りのない除法もできる。繰り上がりがある加法は、指を使って計算する。3位数+3位数もできる。 mm・cm・mの長さを定規で測ることができる。 重さについては、はかりを使って量ることができるが、目盛りを水平に読む量り方は定着していない。また、単位の換算は難しい。

3 指導に当たって（研究との関連）

「どこまでができていて、どこからができないのかを明確にした授業づくり」

- 本単元を指導するに当たって、国語科や算数科における子どもたちの基礎的な学力がどの程度定着しているかを把握する。方法としては、それぞれの子どもがこれまで取り組んできた学習内容について、もう一度同じ問題に取り組ませたり、いろいろな長さの文章を読み取らせたり日記等で文章表現の傾向を調べたりして、再度実態を調査し確認することによって、ちょっと頑張ればできる目標を設定する。

「子どもの伝えたいという気持ちを高め、日常生活につながる単元や題材の工夫」

- 子どものやってみたい、伝えたいという気持ちを強くするために、作ったおもちゃを保護者や交流学級の友達、パーティーに招待した教職員にプレゼントしたり、一緒に遊んだりすることで、頑張ったこと、できたことを多くの人に認めてもらい、より達成感を感じることができるようにする。さらに、秋に手に入る身近な木の実や落ち葉を使って簡単に遊べるおもちゃや飾りにし、子どもが休み時間などいつでも使えるように材料を準備しておくことで、日常生活の中で子どもが作りたい物を自由に遊んで飾ったり遊べるようにする。

「子どもの『見通しをもって学習する力』、『自分で決める力』、『他者に伝える力と聞く力』を育むICTの活用」

- 子どもが自分で選んで作るおもちゃや飾りの作り方については、児童用コンピュータや電子黒板で提示することで、視覚的な情報によって、子どもたちが作りたいものを自分で選び、自主的に作ることができるようにする。また、児童用コンピュータや電子黒板は、自分でまたは教師と操作しながら、自分のペースで作り方を理解し、作ることができるようにする。

4 指導計画（全16時間）

次	時間	指導のねらいと主な活動内容
一 次	2	<p>「秋を探そう。」 【指導のねらい】 秋にできる木の実を使っての遊びを楽しんだり、写真を使って他の季節と自然の様子を比較したり、木の実や落ち葉等を拾ったりして、秋を感じることができる。</p> <p>【活動内容】 1 秋にできる木の実を使っての遊びを楽しむことができる。 2 校庭や近くの公園で、木の実や落ち葉を拾う。</p>
	5 本時 (4/5)	<p>「拾った木の実や落ち葉を使って、おもちゃや飾りを作って遊ぼう。」 【指導のねらい】 秋という季節を感じながら、木の実や落ち葉等を拾っておもちゃや飾りを作って遊んだり、友達との活動を楽しんだりして、日常生活でも作ってみようという意識を高めることができる。</p> <p>【活動内容】 1 秋の様子が分かる本や木の実等を使ったおもちゃの作り方が載っている本を探す。 2 秋に関する本を友達に分かるように読んだり、木の実や木の葉で作った簡単なおもちゃや飾りを紹介したりする。 3 木の実や木の葉等を使って作ったおもちゃで遊んだり、飾ったりして楽しむ。</p>
二 次	1	<p>「秋のあすはばパーティーの計画を立てよう。」 【指導のねらい】 秋のあすはばパーティーでどんなことをしたいかを考え、計画を立てることができる。</p> <p>【活動内容】 1 これまでの祭りなどを活動を振り返り、どのような活動をしてきたかを話し合う。 2 秋のあすはばパーティーで、どのような活動をするか話し合い、計画を立てる。</p>
	5	<p>「秋のあすはばパーティーの準備をしよう。」 【指導のねらい】 みんなが協力して、秋のあすはばパーティーの準備をすることができる。</p> <p>【活動内容】 1 買う物を考え、買い物の練習をして、実際に買い物に出かける。 2 招待状を書き、届けに行く。 3 パーティーにおける役割を決める。 4 教室の飾り付けをする。</p>
三 次	3	<p>「秋のあすはばパーティーを開こう。」 【指導のねらい】 計画してきたことを基に、秋のあすはばパーティーをすることができる。</p> <p>【活動内容】 1 役割を分担して簡単な調理をする。 2 秋のあすはばパーティーをする。</p>

5 本 時 (7 / 1 6)

(1) 目 標

- 自 分 の 本 時 の 課 題 が 分 かり、見 通 し を も っ て 友 達 と 協 力 し な が ら 秋 に 手 に 入 れ る こ と の で き る よ う に 木 の 実 や 落 ち 葉 等 を 使 っ て、お も ち ゃ を 作 っ て 楽 し く 遊 ん だ り 飾 り を 作 っ た り す る こ と が でき る。
- お も ち ゃ や 飾 り の 作 り 方 に つ い て、写 真 を 見 た り 大 事 な こ と を 読 ん だ り し て 知 り、分 か ら ない と こ ろ は 教 師 や 友 達 に 聞 く こ と が でき る。
- 秋 に 手 に 入 れ る こ と の で き る 木 の 実 や 落 ち 葉 等 を 使 っ て お も ち ゃ や 飾 り を 作 り、友 達 や 教 師 と 遊 ん だ り、身 の 回 り を 飾 っ た り し て、パ ー テ ィ ー を 開 く こ と へ の 意 欲 を 高 め る こ と が でき る。

個人目標	A児 (1年男)	○ 手本を見ながら、めあての中にある「つかって」「おもちゃ」「かざり」の文字を正しく書くことができる。 ○ 20までの数で、友達から言われた数の材料を数えて渡すことができる。
	B児 (1年女)	○ 手本を見ながら、めあての中にある「つかって」「おもちゃ」「かざり」の文字を正しく書くことができる。 ○ 20までの数で、友達から言われた数の材料を数えて渡すことができる。
	C児 (2年男)	○ 「秋」「木」「作る」の漢字を使ってめあてを書いたり、ワークシートには、これまでに学習した漢字を使って書いたりすることができる。 ○ 必要な材料の個数を乗法を使って計算し、友達に伝えることができる。
	D児 (4年男)	○ 作ったおもちゃの遊び方について、発表話型や自分で書いたメモをもとに友達に分かるように発表することができる。 ○ 木の実や落ち葉等を除法を使って友達に同じように分けることができる。

(2) 展 開

過程 (分)	主 な 学 習 活 動	子 ども に 応 じ た 具 体 的 な 指 導			
		A児	B児	C児	D児
つかむ・みとのおす (10)	1 はじまりのあいさつをする。 2 前時の学習を振り返る。 3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">秋の木の実や落ち葉を使って、おもちゃやかざりを作って遊ぼう。</div> (1) めあてを声に出して読む。 (2) めあてをワークシートに書く。	○ みんなで元気よく歌を歌って雰囲気を盛り上げ、元気よく始まりのあいさつをする。歌うのが難しい場合は、体全体を使って表現できるようにする。 ○ 前時の学習場面の写真を見て活動を振り返ることで、何の学習をしていたか思い出し、発表できるようにする。 ○ 教師がめあての文を短く区切って読むことで、大切な言葉を確認しながら教師に続けて読むことができるようにする。 ○ ワークシートに書くめあての手本を準備しておくことで、書く欄の近くに置き、見ながら書くことができるようにする。	○ 書く前に習った漢字を確認すること、書くことができ漢字を使ってめあてを書くことができるようにする。 ○ 漢字を忘れて書くことができない場合は、ホワイトボードを使って正しい漢字を示すことで、自分で書くことができるようにする。		
かつどうする (30)	4 木の実や落ち葉等を使って、おもちゃや飾りを作る。 (1) おもちゃや飾り作りの手順を確認する。 (2) メッセージカードを見て、それぞれが作るものを確認する。 (3) それぞれの場所で、製作する。 (4) おもちゃを作って遊んだり、飾りを作って飾ったりする。	☆ 子どもたちへのメッセージを伝えるVTRを視聴し、その内容を示したカードを提示することで、個人目標が分かるようにすると共に、意欲的に活動できるようにする。 ○ 個人の目標と、学習の流れを掲示しておくことで、自ら手順を確認しながら見通しをもって意欲的に活動できるようにする。 ○ 別の場所に一つずつ移しながら数えることで、正しく数えることができるようにする。 ○ タイマーが鳴ったら遊ぶことを止めると約束し、タイマーで遊ぶ時間の設定をしておくことで、子どもが見通しをもって活動に取り組み、スムーズに次の活動に移ることができるようにする。	○ 必要な材の個数を求め乗法で求めることができると共に、友達に伝えて準備をすることができるようにする。	○ 木の実や落ち葉を数え、一人が使ってよい個数を除法で求めるようにする。 ○ 作り方や遊び方のコツをメモしておくことで、発表に生かすようにする。	
ふりかえる (5)	5 本時の学習を振り返る。 (1) 頑張ったことや楽しかったことを発表する。 (2) 友達のがよかったところを発表する。 6 次時の学習について知る。	○ 教師と一緒に話し合い、自分ができたことや頑張ったことを確認することで、自分が頑張ったこと、楽しかったことなどを発表できるようにする。 ○ 単元マップで次時の活動を確認することで、次時の活動への見通しをもつことができるようにすると共に、次時の活動への意欲をもつことができるようにする。			

個人目標	E 児 (5 年女)	○ 習った漢字の正しい書き方に注意して、ワークシートに丁寧に書くことができる。 ○ はかりの正しい使い方を確認し、材料の重さをはかりを使って量ることができる。
	F 児 (6 年男)	○ 「秋」「木」「作る」の漢字を使ってめあてを書いたり、ワークシートには、これまでに学習した漢字を使って書いたりすることができる。 ○ 減法の計算では指を使いながら計算したり、計算機を使って計算の確かめをしたりすることができる。
	G 児 (6 年男)	○ 作り方の確認をする際に、大切なポイントに注意して聞いたり読んだりし、学習した漢字を、手本を見ながらワークシートに書くことができる。 ○ 繰り下げがある減法の筆算で、繰り下げたことが分かるように数字を書き換えて計算したり、計算機を使って計算の確かめをしたりすることができる。
	H 児 (6 年男)	○ 作り方の確認をする際に、大切なポイントに注意して聞いたり読んだりし、「す」や「ま」などの丸くなる部分に気を付けると共に、手本を見ながら学習した漢字を使って、ワークシートに書くことができる。 ○ 筆算の手順を確認して計算したり、計算機を使って計算の確かめをしたりすることができる。
	I 児 (6 年女)	○ 習った漢字を使いながら、ワークシートに丁寧に書くことができる。また、木の実を使ったおもちゃの作り方について、何を何 g 量ればよいかに線を引きながら読み取り、読みとったことに気を付けておもちゃを作ることができる。 ○ 材料等の重さ (g) をはかりを使って調べ、同じ重さのものを見つけておもちゃや飾りを作ることができる。

☆はICT活用の留意点

過程 (分)	子どもに応じた具体的な指導				
	E 児	F 児	G 児	H 児	I 児
つかむ・みとおす (10)	○ みんなの前で発表しよう ○ よき友をさがす ○ 他	○ 元気よく歌を歌う ○ 友の歌を聴く ○ 歌の歌詞を覚える ○ 歌の歌詞を覚える	○ 歌を歌って活動をする ○ 歌を歌って活動をする ○ 歌を歌って活動をする	○ 雰囲気を取り除き、元気に活動をする ○ 雰囲気を取り除き、元気に活動をする ○ 雰囲気を取り除き、元気に活動をする	○ 元気よく始めのあいさつをする ○ 元気よく始めのあいさつをする ○ 元気よく始めのあいさつをする
かつどうする (30)	○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める	○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める	○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める	○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める	○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める ○ ☆ 意欲を高める
ふりかえる (5)	○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り	○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り	○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り	○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り	○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り ○ ☆ 振り返り